

農地中間管理事業と基盤整備事業を併せて活用することにより、
かけがわし さづか
地域内の農業法人へ効果的な農地集積が実現(静岡県掛川市佐東地区)

基盤
整備
の活用

機構
の活用

地域の概要

108haの耕地(農地権利関係者443名)を含む大字単位のエリアで、高齢化した営農集団と兼業農家が多く、**今後、地域の水田を守っていく担い手が不足**している。平地農業地域。



静岡県掛川市

<人・農地プラン基礎データ>
作成予定地域数:13
作成済地域数:13
27年度見直し地域数:13

取組の成果

- 地域の水田を守っていく機運が高まり、基盤整備事業や地域集積協力金を活用して担い手が管理しやすい水田に整備
- 中心経営体である法人に農地を集積
- 担い手への集積率:[取組前] 38.9%(43ha)⇒[取組後] 57.4%(66ha)

取組のポイント

地域の水田を将来にわたり守っていくため、話し合いにより意識を醸成

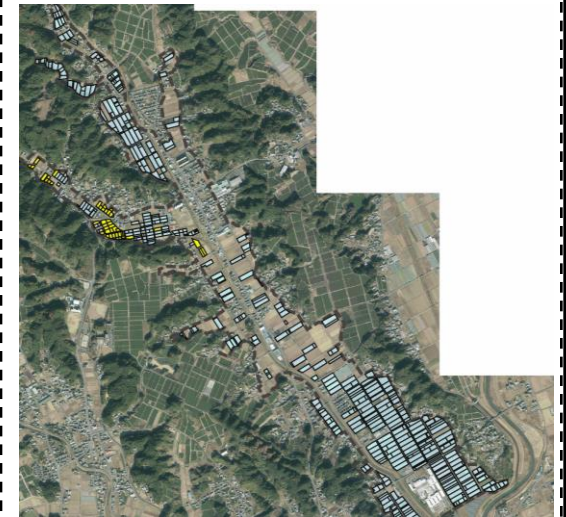
農業委員や農地・水・環境保全組織の役員などの**地域のリーダーと担い手である農業法人が前面に立ち**、座談会などによる話し合いを重ね、農地基盤整備の必要性をプランの話し合いで話題にし、**意識の醸成**や意向確認等を進めた。

集積協力金の活用と基盤整備を併せて行うことで、合意形成が実現

この結果、地域の水田を守っていく機運が高まり、農地中間管理事業による**地域集積協力金を地元負担に充当**し、農業競争力強化基盤整備事業による**大区画化や暗渠の設置**等を行うことで、中心経営体である農業法人が将来に渡って安心して営農できる基盤を確保することを話し合いで決定した。

話し合いの内容を地域住民に説明

人・農地プランの話し合いの結果を、農業者に限らず、**地域の住民に説明**し、取組への理解を得ると同時に、地域の水田営農の将来像や集積の必要性などについて、地域全体の意識がより高まった。



取組後の
農地集積マップ